

電気通信大学 2025 年春期語学留学報告書

所属・学年： II 類 3 年 角野 僚

留学先大学名： FPT 大学

留学先国名：ベトナム

1 参加の動機

このプログラムは、生協前にあった語学留学の紹介看板で知りました。大学に入る前から留学に興味があり、大学生時代にぜひ行ってみたいと考えていましたが、特に自分から調べるようなことはしていませんでした。2 年生の 10 月ごろにこの看板を見つけました。初めは悩んでいましたが、サークルに前の年の同じ時期に留学に行った先輩がおり、その先輩の勧めもあって留学に行くことに決めました。この国を選んだ理由ですが、他の国と比べ安価であったことと、バディという制度があり、各学校に必ず現地の学生がついてくれるということを知ったからです。私は日本では経験したことのない体験や、違う国の違った価値観に触れてみたいという思いがあり、クラスが日本人ばかりにならなそうなベトナムに行くことを決めました。また、ホームステイへの不安もありましたが、ベトナムではホテルに滞在することになっていたのも、それも初めての留学先としてベトナムを選んだ理由の一つです。

2 授業、アクティビティについて

ベトナムでの授業は、平日は大きく 3 つに分かれており、午前中の English class, 午後の English joy adventure, そしてその後の free time です。それぞれの細かい内容ですが、まず午前中の English class は 9 時から 12 時までの 3 時間を主に自分の学校の生徒とそのバディとの少人数クラスで英語の授業を受けていました。様々なトピックでのプレゼンテーションを多く行い、他にも Smalltalk という、状況に応じた雑談を何往復か行う活動もしていました。文法の授業も少しありましたが、その文法自体はとても簡単でどちらかということとその文法をその後のプレゼンや Smalltalk に活かし、意識して話してみようというものでした。続いて午後の English joy adventure ですが、こちらは 13:30 から 16:30 までで、主にグループに分かれて英語でゲームを行うことが多かったです。その他にもショッピングモールに行きインタビューをしてみる、市場に行き値引き交渉をしてみる、などのチャレンジもありました。このアクティビティには他の大学の学生も参加していましたが、さらにフィリピンやタイなど他の国からの留学生もおり、グループが日本人だけになることはなかったです。初めは、英語でゲームのルールの説明を理解する、ご飯を一緒に食べている時の会話が難しいなどの苦労も少しありましたが、慣れれば気にすることなく楽しめました。また、休日の一部にはツアーやホームステイがありました。ツアーでは近くの観光地を巡り、ホームステイは 1 人から 2 人で一晩だけ滞在しました。

3 自由時間での活動について

自由時間についてですが、平日はホテルへの帰りが 17 時ごろだったのもあり、その後に観光に行くことはあまりありませんでした。ご飯を食べに行ったり、ショッピングモールや市場に買い物に行くなどをして過ごしていました。休日ですが、車で 1,2 時間ほどのバーナーヒルズという遊園地に行きました。山の上にあるテーマパークでゴールデンブリッジという

、手を模った岩が橋を持っているようなものがあり、たくさんの観光客がいました。山の上なので天候に左右されやすいのですが、私が訪れた時は快晴で、景色もとても綺麗でした。また、フエという古都に行き、古いお城や街並みを見ました。移動には主に grab という配車アプリを使うのですが、親切なドライバーさんがおり、ある観光地に行こうとした時にその間の別の観光地に連れて行ったりしてくれました。あとで別に料金を請求してくることもなく、ただ親切な方だったので、初めは警戒していましたが、帰る頃には仲良くなっていました。全ての人がただ親切なだけとは限らないので、ある程度警戒すべきだとは思いますが

、私は事前に思っていたより親切な方が多かったかなと思います。

4 ホームステイや生活一般について

まず、ベトナムでのプログラム期間中はホテルに滞在していました。基本的には2人1部屋で、同じ大学からの参加者が奇数だった場合には、他大学の学生と同室になることもありましたが、部屋には必要なものが一通り揃っており、特に不便は感じませんでした。朝食はホテルのビュッフェを利用していました。昼食は授業がある日は主に学食で取り、様々なメニューを楽しむことができました。中には約90円程度で食べられるような安価なものもあり、コストパフォーマンスの高さに驚きました。夕食は、同じ大学のメンバーと外食に出かけたり

、ホテルで宅配を頼んだりしていました。日用品などの物価も全体的にとっても安く感じられ、ついつい買いすぎてしまうほどでした。また、私たちが滞在していた地域では、特に治安が悪いと感じることもなく、安心して生活することができました。

5 今回の留学を通じて得たこと

今回の留学を通して、特に強く感じたことは、「言語に対する考え方が大きく変わった」ということです。留学に行く前は英語に対して強い苦手意識があり、興味はあるものの「本当に自分の英語が通じるのだろうか」と常に不安を抱えていました。留学は憧れでしたが、言葉の壁が大きなハードルに感じられていたのです。しかし、実際に現地で生活してみると、たとえ拙い英語でも思っていた以上に自然に会話ができ、自分の考えを伝えたり、相手の話を理解したりすることができました。最初は戸惑うこともありましたが、徐々に「完璧な英語でなくても伝わる」という感覚を掴むことができ、自信へとつながっていきました。これまでの英語学習が、意外にもちゃんと身につけていたことに気づき、嬉しさと驚きを感じたと同時に、「もっとスムーズに会話ができるようになりたい」という新たな目標もできました。日常会話だけでなく、自分の意見や気持ちをよりの確に表現したいという気持ちも強くなりました。この経験を通して、英語を話すことへの心理的なハードルがぐっと下がり、今では英語を勉強すること自体が前向きで楽しいものになりました。留学は、語学力だけでなく、自分の考え方や学びに対する姿勢までも変えてくれる貴重な機会だったと感じています。今後もこの経験を活かし、より実践的な英語力を身につけていきたいと思っています。

6 今後の抱負

今後、TOEICの勉強に本格的に取り組むことになり、これまであまり力を入れてこなかった英語の学習を始めることになりました。これまでは、英語に対して「テストのために勉強するもの」というイメージが強く、なかなかモチベーションが上がらなかったのですが、留学を経験したことで、その考え方が大きく変わりました。現地で出会った友人たちともっと深く会話をしたい、言いたいことをスムーズに伝えたいと感じる場面が多くあり、「実際に使える英語を身につけたい」という気持ちが強くなりました。単に点数を上げることだけが目的ではなく、自分の世界を広げる手段として英語を学びたいと考えています。そのため、これからは英語の学習時間を意識的に増やし、TOEICのスコアアップを目指すとともに、留学でできた友人たちとも自然に会話ができるレベルの英語力を身につけていきたいと思っています。英語を通じて、もっと多くの人や考え方に触れ、自分自身の視野を広げていけたらと考えています。

7 参加希望者へのアドバイス

私は高校生の頃から、漠然と「大学生になったら留学したい」と思っていました。そして、なんとなく過ごしていた大学生活の中で、たまたま見かけた留学の看板がきっかけで、留学を決意しました。計画性もなく思いつきのように決めた私でしたが、実際に行ってみるととても楽しく、そして自分の考え方にも大きな影響を与えてくれました。そんな私でも充実した時間を過ごすことができたので、今まさに留学を真剣に考えている皆さんであれば、き

つと もっと濃くて有意義な時間を過ごせるのではないかと思います。もちろん、お金などの現実的な問題もあるかもしれませんが、それでも私は「ぜひ行ってみたい」と心から思います。

8 その他（任意）

- 1 番上はホテルから歩いてすぐにあるビーチから見た朝日の写真です。
- 2 枚目はホイアンという観光地の様子です。このようにランタンがたくさんあります。
- 3 枚目はハン市場という大きい市場です。
- 4 つ目はバーナーヒルズというテーマパークのようなところにあるゴールデンプリッジという大きな手を模った橋です。







